

## 経営健全化方針に基づく取組状況（令和2年度）

### ○法人名

（一社）富士見パノラマリゾート

### ○経営健全化方針を策定した理由

- ・施設建設時及び富士見町から借り入れた債務が主な要因で、債務超過となっている。

### ○財政的リスク状況

	令和元年度決算	令和2年度決算	目標達成年度 (令和5年度)
債務超過額（円）	717,381,918	752,439,403	600,000,000

### ○主な取組状況（令和3年3月現在）

#### 【法人自らによる経営健全化のための具体的な対応】

- ・平成30年度に「成長戦略プロジェクト」を発足させ、10年後の成長計画目標を設定した。成長戦略ストーリーは①新規事業②自然環境整備③成長に向けた人事制度など、9つのプロジェクトチームを作り具体的な検討を行った。

#### 《成長計画目標》

- ①お客様倍増 年間25万人 → 50万人
- ②売上倍増 13億7千万円 → 27億4千万円
- ③営業利益倍増 8千700万円 → 1億4千万円
- ④社員数倍増 127名 → 254名
- ⑤給料倍増 30万円（平均賃金） → 60万円

≪具体的成果≫

- ①社名を「富士見町開発公社」から「富士見パノラマリゾート」に変更した。
- ②いちご農園を事業化し、夏いちごの試験栽培を開始した。
- ③冬期間の新たなアクティビティとしてアイスクライミングウォールを設置し運用を始めた。
- ④ゴンドラ山頂エリアの緑化と車いす用の舗装を行った。
- ⑤入笠山周辺に新しく遊歩道と展望デッキを設置した。
- ⑥ゴンドラ山頂エリアで「早朝ヨガ」、「ウォーキングと朝粥」などのウェルネスプログラムを開発し試行した。
- ⑦インバウンド向けに空港（成田・羽田）から自宅（目的地）まで直行便を設定した。

【地方公共団体による財政的なリスクへの対処のための対応】

- ・ゴンドラリフトや造雪用水圧送ポンプ設備等に使用されている高圧電気埋設ケーブル更新工事について、一般会計から観光施設貸付事業特別会計への繰出しによる工事の実施。
- ・パノラマリゾートとの連携により、誘客キャンペーンによる積極的な誘客施策の実施。
- ・コロナ禍における資金確保のための借入に対して、金融機関との損失補償契約。

○法人の財務状況（貸借対照表から）

	令和元年度	令和2年度
資産	939,588,862	1,051,674,338
（うち現預金）	245,235,195	365,272,051
（うち売上債権）	27,156,824	25,955,135
（うち棚卸資産）	15,914,865	16,423,471
負債	1,656,970,780	1,804,113,741
（うち当該地方公共団体からの借入金）	1,430,000,000	1,410,000,000
純資産額	-717,381,918	-752,439,403

（損益計算書から）

	令和元年度	令和2年度
経常収益	1,337,534,272	941,598,768
経常費用	1,248,990,012	892,540,208
経常損益	88,544,260	49,058,560
経常外損益	6,518,439	10,241,784
特別損失	92,922,306	94,285,729
当期純損益	2,140,393	-34,985,385